第３１回日韓中ジュニア交流競技会　和歌山大会参加報告

総監督　中山　学（全国高体連ハンドボール専門部委員長）

本競技会は、１９９３年（平成５年）日本（福島県）からスタートした３ヵ国交流競技会です。コロナウイルス感染症の世界流行で中止となっていましたが、４年ぶりの開催となり誰もが待ちわびた国際大会です。３ヵ国の選手も役員もみんな笑顔でしかもワクワクする気持ちでいっぱいだと感じました。またフェアプレーの精神と相手をリスペクトする姿勢がみられ、素晴らしい雰囲気の中で日本・韓国・中国・開催県の４チームによる総当たり戦を繰り広げることとなりました。この交流会は日本選手団１１競技総勢２６４名で結成され、ハンドボール競技においてスタッフ５名、選手男女１４名、合計３３名で大会に望みました。

この大会に向けては、１月都道府県専門部から有望選手を発掘していただきながら、各ブロックのジュニア発掘委員とブロック委員長でブロック推薦をまとめてもらいました。その後全国選抜大会やユース代表等を含め選手選考会参加者名簿を作成し、４月上旬に本大会の選手選考会を実施しました。振り返ると、選考会は京都府高体連専門部および協会のご支援のもと京都府立山城総合運動公園体育館にて男子６０名女子５４名で選考を行い、各１４名を選考できました。ご協力頂きました関係各位に感謝申し上げます。

大会直前に強化合宿を８月２２日午後から２４日まで実施しました。最初の挨拶で男女に怪我をせず、ベストパフォーマンスを心がけながら、優勝目指して頑張ろうと声をかけました。男子は大阪体育大学体育館で大学生及び鹿児島少年選抜とのテストマッチ等を行わせて頂きました。２３日にはパリオリンピックアジア予選の韓国戦をパブリックビューイングで応援させてもらったことで、気持ちも高まり充実した環境下で本番に向けて準備が整いました。大阪体育大学下川先生を始め関係者、鹿児島選抜監督徳留先生には感謝しかありません。ありがとうございました。女子も同様に武庫川女子大学体育館で大学生の胸を借りながら合同練習やテストマッチでチームの課題やチームの方向性等ができました。２３日には大学生と神戸星城高校とゲームをさせて頂きながら徐々にチームらしくなっていきました。武庫川女子大学佐久川先生と神戸星城高校野路先生には心からお礼申し上げます。

さて、いよいよ和歌山大会に向けて２４日会場へ移動し、午後より指導者ミーティングを県民文化会館で大会の心得や事務的な連絡を行い、続けて監督審判会議で日本・韓国・中国・開催県の４チームでユニフォームチェックや明日からの対戦に向けて健闘を称え合いました。その後は１１競技と大会役員含め約１１００名で開会式が行われました。地元高校によるオープニングは箏演奏で心が高揚し、その勢いのまま３ヵ国と開催地による選手宣誓や各国団長のご挨拶でより盛り上がりました。会場は県庁前であり、大型バスの渋滞が起こるほど大会規模の大きさが伺えました。それを日本スポーツ協会、和歌山県実行委員会の方々が交通整理から誘導まで汗だくになりながら行って頂き、選手役員は心が引

き締まる思いでした。

試合経過など詳細については男女監督に報告をしてもらいますので、ここでは省かせて頂きます。２５日から和歌山選抜戦で幕を開けました。多くの保護者が会場に足を運んでくださり、男女両方の応援をして頂きました。特に試合を撮影してくださり、選手達はミーティングでその映像を見ながら課題克服に役立てることができたことは大変ありがたいことでした。試合後、変化を感じたことがありました。それは保護者の笑顔と声援です。そしてそれを見て答える選手達です。こんな光景はコロナ禍の中であまり目にすることがなかったためか、とても新鮮で忘れかけた一体感を感じました。フェアプレーの精神や人間力を垣間見る光景でもありました。２６日中国戦、２７日韓国戦と続きましたが、この一体感はますます大きくなり男子優勝、女子準優勝の陰にはこういう何気ない人間力の積み重ねがプラスに働いたのかもしれません。また、私事ですが一生忘れない出来事がありました。男子が優勝した後、選手から胴上げをしてもらいました。一人の選手の声かけで、全員が笑顔で私を囲んでくれ宙を２回舞う幸せな瞬間をくれました。みんなありがとう。

２７日夕方からフレンドシップ交流会が盛大に行われました。例年は各国から出し物を披露する交流会でしたが、今年度は３ヵ国が一つのチームとなり、ゲームやクイズを繰り広げました。クイズでは、正解すればその場に立ち、不正解で着席するスタイルのクイズでした。問題はこの交流競技会に関するものや各国にまつわるものでした。国を超えて大きな歓声や笑い声などが巻き起こりました。中でも質問が３ヵ国にまつわる質問に、他国の選手に答えを教え合う姿や他国へ嘘の情報をわざと伝えて、間違ってお互いが大笑いする姿などすべての人が一つになった瞬間でした。これこそフレンドシップ交流会だと感じました。選手達には忘れることのできない貴重な時間となりました。

２８日は韓国・中国選手団は文化探訪行事に参加しましたが、日本選手団はホテルで解団式がありました。私から合宿で「怪我をせず、ベストパフォーマンスで優勝」を伝えましたが数名の選手が怪我をしてしまい、気持ちよく選手を送り出してくれた各顧問の先生には大変申し訳なく思っています。怪我をした選手の一日も早い回復を願っています。それでも男女ともに素晴らしい成績を残してくれたことには感謝しています。最後の挨拶で伝えたことは、「君たちはこれから日本を背負ってそして世界へ羽ばたく至宝であること」「次のカテゴリーでハンドボールをより好きになって活躍する姿をこれから応援する」ことを伝えて解散しました。スタッフの皆も昼夜問わず、また男女の垣根を越えて選手のために頑張ってくれました。本当にありがとうございました。

結びに、公益財団法人日本ハンドボール協会及び各都道府県ハンドボール協会並びに各校顧問の先生方、和歌山県実行委員会そしてすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げ、報告とさせて頂きます。今後とも、全国高体連専門部へのご理解とご協力をお願いいたします。

写真１（男子）

写真２（女子）